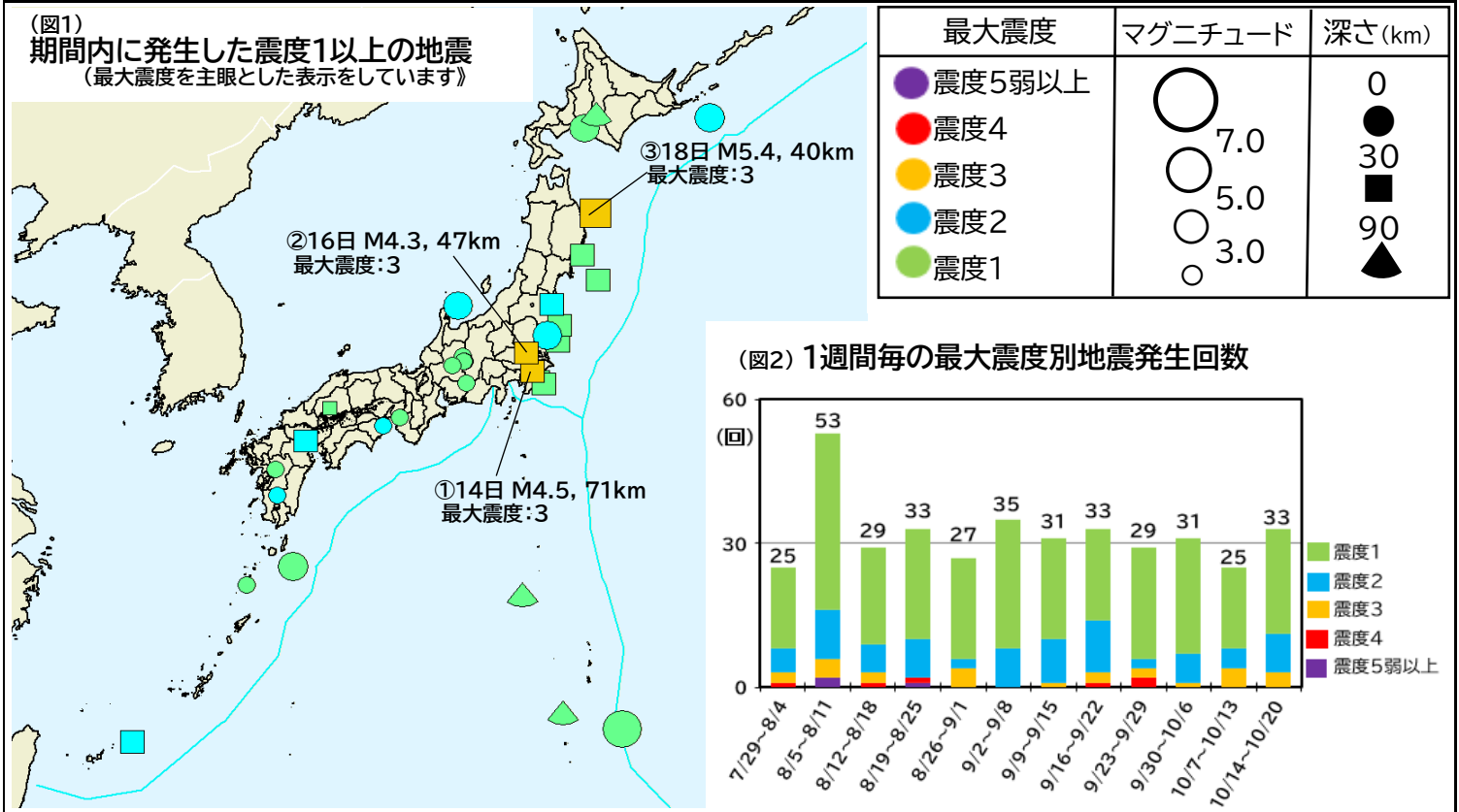


この期間の最大震度は3

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典: 気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が33回発生。最大震度は3。 ■
- ①10月14日19時45分に東京湾で発生した地震(M4.5、深さ71km)により、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県で震度3を観測したほか、関東地方を中心に甲信地方、静岡県、伊豆諸島にかけて震度2~1を観測。
- ②10月16日17時53分に茨城県南部で発生した地震(M4.3、深さ47km)により、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県で震度3を観測したほか、東北地方南部から関東地方にかけて震度2~1を観測。
- ③10月18日13時38分に岩手県沖で発生した地震(M5.4、深さ40km)により、青森県と岩手県で震度3を観測したほか、北海道南部から東北地方にかけて震度2~1を観測。

トピックス

- 新潟県中越地震から20年 ■
- ・2004(H16)年10月23日に新潟県中越地方を震源とするマグニチュード6.8の地震が発生し、新潟県川口町(現:長岡市)で震度7を観測したほか、長岡市や魚沼市などの新潟県中越地方で震度6弱以上の強い揺れを観測したほか、東北地方から近畿地方にかけての広い範囲で震度1以上を観測しました。
- ・この地震の特徴の一つとして活発な余震活動があり、約1カ月後にも最大震度5弱の地震を観測するなど、本震発生直後1週間程度にわたって特に活発でした(図3、図4)。
- ・余震活動が活発となった要因としては、本震とは別の2つの断層面で余震が相次いで発生したためと考えられます。
- ・この地域は、日本有数の地すべり地帯であるため、地震の揺れに伴って斜面の崩落などの地盤災害が各地で発生し、道路の寸断、集落の孤立、河道の閉塞による浸水被害などが発生しました。
- ・このような地盤災害は能登半島地震でも発生し、奥能登地方では後日の大雨により被害が拡大しました。
- ・中越地震では地震による直接死ではなく、避難した後に何らかの原因で亡くなる「災害関連死」が課題となりました。
- ・相次ぐ余震の恐怖もあり、長期化する避難生活の中で、慣れない避難所での生活によるストレスなどが原因となり、死者68人中、52人が「災害関連死」でした。人目を気にせず過ごすための車中避難による「エコノミークラス症候群」が注目されたのもこの地震の特徴です。

